

第40回公演「久美・美容室物語」 団長の独り言

「美容室が舞台の物語」 鈴木千秋

脚本執筆中の団長・平野恒雄に代わり、今週は鈴木千秋が『独り言』を担当いたします。

二月に上演した「久美・美容室物語」を終え、早くも二か月が過ぎました。

その間、劇団の稽古はお休みでしたが、新年度の公演に向けて、出演希望の方々にお会いしたり、メンバーが出演する舞台を観たり、映画を観たり、美術館へ行ったりしました。

「久美・美容室物語」は今年の秋に再演予定です。

詳しくは劇団HP、SNS等で発表されますので、引き続きチェックをよろしくお願いたします！

では、あらためて初演「久美・美容室物語」を振り返ります。

前回公演「ぎ・クリーンキーパー」の稽古場で、にこにこした笑顔の団長から、『新作は美容室が舞台の物語になります』とお話がありました。

「美容室」と聞いただけで、なんだかワクワクする気持ちが湧きあがりました。私だけでなく、その場にいたほとんどのメンバーの心が弾んでいるようでした。

実際、その場で「出演したい！」と積極的に挙手するメンバーも多かったです。美容室には今でも通っていたり、小さい頃の思い出があったり、私たちの身近にある場所なのかなあと想像します。

これまでの平野作品では、売れない役者、売れない演歌歌手、クリーンキーパー、寂びれた温泉宿、かつては賑わっていた巨大温泉ホテル、といった人や場所を舞台にしたものがありました。美容室が舞台となるのは初めてです。

団長と美容室は、あまりイメージが結びつきませんでしたし、美容室が舞台の作品を描くというのも意外でした。

意外性もあったからでしょうか、「美容室」と聞いて驚きながらも、一気に楽しみが増しました。

さて、この作品で私は主人公・久美の娘で次女の敦子を演じました。

敦子は元美容師で、現在は旅行の派遣添乗員です。

美容専門学校を卒業後、十年ほど美容師の修行をしましたが、続けられず美容師を辞めて、派遣添乗員として働いています。

その派遣添乗員も少しずつ経験を重ね、十年目です。

接客業に向いている性格で、物事にも臨機応変に対応できるので、添乗員の仕事は合っていたようです。

ところで添乗員さんって、どんなお仕事をされるのでしょうか？なんとなくイメージはできますが、添乗員さんが同行する旅行の記憶は、学生時代にまで遡ることになりそうです。

そういえば学生時代、旅行業界や添乗員さんに憧れたなあ…。

私の記憶は当てにならないので、添乗員さんが書いた本を読み、インターネットで情報を集めました。

が、もつとリアルに知りたく、添乗員さん同行の日帰りバスツアーに行くことにしました。

ツアーを探してみると、劇中に出てくるものとはほぼ同じ季節・コースを巡るツアーがあったので申し込みました。

旅行会社から届くりメールアドレス、ツアーでのリアル添乗員さんのトーク、振る舞い等を見て研究し、直接話しを聞いてきました。

体験したからこそ気づけることもあったので、実際に行ってみて良かったです。

あとから聞いた話ですが、お客様や受付スタッフの方に、旅行会社で働いていたり、添乗の仕事をしていた方が観劇されていたとのこと。

添乗員役について変なところが無かったか、その方々に恐る恐る聞いてみたら、問題なくちゃんと添乗員さんに見えたと言っていたので、ほっとしました。

そしてもう一つ、美容師さんについても色々勉強しました。なにせ実家が美容室で元美容師の役ですから。

美容師さんについては、いつも行っている美容室で、行く度にお話を聞きました。偶々、担当の美容師さんと敦子が同年代だったので、美容学校時代、修行時代、大変だったこと、先輩との関係、美容業界のこと、その時代の流行等々、敦子が美容師を目指し奮闘していたその時代についても、詳しく教えていただくことができました。

またその美容師さんには小さいお子さんもいて、スタッフルームから聞こえてくるお子さんの笑い声や、たまーに聞こえてくる妹の泣き声に、姉・昌子と敦子もこんな感じだったのかなあと想像して、役作りの参考にさせていただきました。

色々と見て、聞いて、感じて、体験したこと、調べて得たものから想像の翼を広げ、役に芝居に繋がられるよう、稽古を重ねました。

再演の舞台では、さらに良いお芝居をお届けできるよう、これから先、どのような状況の変化があったとしても、その時のベストを尽くせるよう、日々鍛錬してまいります。